

札幌で起こりうる 災害を知る

もしものときに素早く行動するために、まずは今後起こるかもしれない災害を知っておくことが大切です。ここでは、予想される地震による被害の大きさや大雨、台風の危険性を紹介します。

最大震度7の地震発生を想定

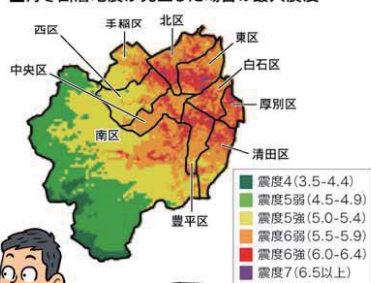
市では札幌に大きな地震を引き起こす原因として、3つの断層を想定しています。中でも、市全域における被害が最大になるのは月寒断層。市街地の大部分は震度6強、6弱の激しい揺れになり、10万棟以上の建物が倒壊する恐れがあります。

■想定地震別の最大震度など(冬に発生した場合)

断層の名称	月寒断層	西札幌断層	野幌丘陵断層帯
最大震度	7	7	7
震度6強以上の発生面積	市内15%	市内10%	市内3%
建物被害(全壊・半壊)	112,461棟	74,636棟	45,392棟
死傷者(死者・重症者・軽症者)	42,629人	25,592人	12,095人

※市防災計画(地震災害対策編)に基づく

■月寒断層地震が発生した場合の最大震度



大雨や台風による被害も

家や道路が雨水であふれる浸水害

川の氾濫による洪水のほか、排水しきれない雨がマンホールなどから噴き出して発生。他都市では、地下施設に水が流れ込み、水圧で扉が開かない、停電により暗くて動けず、逃げ遅れるなどの被害も発生しています。



大量の土砂が、家や人を巻き込む土砂災害

市内で土砂災害の危険がある場所は約1,000カ所。地面に水がしみ込むことで地盤が緩み、突然崩れる「崖崩れ」、谷や山で崩れた土や石が水と一緒に流れる「土石流」などに注意が必要です。



災害の知識や取るべき行動を学ぼう

地震や暴風などを模擬体験できる 市民防災センター



▲地震体験コーナーでは東日本大震災の揺れなどを体験できます

災害や火事といった、万が一のときに取るべき行動などを学べる体験型の施設です。

開館時間 9時30分～16時30分
所在地・入館料 白石区南郷通6北。無料
交通機関 地下鉄東西線「南郷7丁目」駅から徒歩3分
詳細 ☎861-1211

災害による地域ごとの被害予測をまとめた各種ハザードマップを配布中

想定される最大震度や液状化の危険性を図示
●地震防災マップ(昨年12月末ごろ全戸配布)
●河川が氾濫した際の浸水区域とその深さを予測
●洪水ハザードマップ(9月から全戸配布)
●崖崩れや土石流による危険が予想される区域を掲載
●土砂災害避難地図・土砂災害危険箇所図
※北・東・白石区は土砂災害危険箇所はありません
いずれもお住まいの区の区役所(1階)などで配布しています。

災害に備えるために

昨年9月6日未明に発生し、道内に甚大な被害をもたらした北海道胆振東部地震。市内の広い範囲で震度5弱以上の揺れに見舞われ、災害の怖さや生活に与える影響の大きさを痛感させられました。今回は、地震から1年が経ち、あらためて備えを確認したいと思っている「ふせくさん」と一緒に、災害に対する備えに役立つ知識を見ていきます。

【詳細】危機管理対策課 ☎211-3062



皆さんの防災に対する意識は?/

災害への備えをしていなかった家庭は35%

市が行ったアンケート※によると、昨年の地震が起こる前、35%の家庭で災害への対策を何もしていなかったことが分かっています。災害による影響を最小限に抑えるためには、一人一人の心掛けが何より重要。災害はいつ起こるか分からないからこそ、継続して備えていく必要があります。

※市民アンケート(平成30年11月実施)より

市内で経験したことのない大きな揺れを 観測した北海道胆振東部地震

発生時刻 平成30年9月6日3時7分
震源地 胆振地方中東部 深さ37km
最大震度 胆振(中東部)で7
マグニチュード 6.7

【市内での被害】
最大震度 東区で6弱
人的被害 死者3人(うち災害関連死2人)、
負傷者297人 ※8月22日現在
建物被害 住家10,802棟(うち全壊99棟)、
非住家254棟(うち全壊7棟) ※8月21日現在
避難者数 平成30年9月7日に
最大約1万人

道路の陥没や断木などの大きな被害もあったな



避難場所

避難方法を確認している家庭は約5割

地震後、室内にとどまることが危険な場合や、市による避難情報が発表された場合には、速やかに避難することが重要です。逃げ遅れることがないように、事前に避難場所を確認し、そこまでの経路を決めておくことが命を守ることに繋がります。

アンケートによると…

避難方法や避難場所を確認した家庭



「皆さんの声を抜粋して紹介」
「冷静に行動できるように、日頃から避難経路の確認を行わないといけないと感じた」(40代女性)
「ペットがいると避難所には、なかなか行けないと思った」(50代男性)

見直そう 複数の避難経路を決めておく

避難場所に着くまでに、大雨で危険になる水路や橋、地震で倒れて道をふさいでしまう建物などがあるかもしれません。状況に応じて道を選ぶように、複数の行き方を実際に歩いて確認しておきます。



＼こちらもチェック／ 市防災アプリ

スマートフォンなどで、気象や避難に関する情報が見られます。現在地で想定される浸水や土砂災害の危険度をアニメーションで確認できますので、ぜひご利用ください。



インストールは
右記のコードから

対応OS: Android版はOS4.4以上、
iPhone版はiOS10.0以上



Android版



iPhone版

＼日頃の備えはほかにも！／

見直そう いざというときに助け合える関係をつくる

大きな災害になるほど、行政だけで救援や援助を行うことは難しくなるため、近所や地域の同士の助け合いが大切です。地域での交流の中で災害時に支援が必要な人がいないかなどを、日頃から気に掛けておくようにしましょう。



自分たちの地域を
自分たちで守る取
り組みの一つだね

経験を忘れずに災害に強い街へ

昨年の北海道胆振東部地震では、大規模な停電や断水が発生し、市内で最大1万人の方が避難するなど、大きな被害を受けました。今後も起こりうる災害の被害を最小限にするには、一人一人の十分な備えが欠かせません。大切な命を守るために、今できることから行動をお願いします。



札幌市長 秋元 克広

被災された方向けの支援制度を まとめた生活支援ガイドを配布しています

災害義援金や被災家屋などの撤去(費用償還)といった支援制度、生活や健康、心の悩みなどに関する相談窓口を掲載した冊子です。
配布場所 区役所(1階)、市役所1階市民の声を聞く課など

生活支援ガイド 検索

右記のコードから
も確認できます



災害への備えを考える

昨年11月に市が行ったアンケートの結果を交えて、自分や家族、周りの人を守るために必要な事前の備えを紹介。昨年の地震後、市が進めている取り組みの一部も併せて見ていきます。



防災対策をもっと充実させるぞ

見直そう 避難時の注意点を再確認

近所同士で声を掛け合い、集団で歩いて避難場所へ移動します。自宅を出る前には、留守中の火災を防ぐために、ガスの元栓を閉めたか、電気器具の電源やブレーカーを切ったかのチェックを忘れずに。



車で移動すると渋滞が起って消防や救急活動の妨げになるかもしれないよね

市の取り組み 避難所の生活環境を整えるために避難場所基本計画を改定

備蓄物資の充実のほか、配慮が必要な方への対応を明記するなどの見直しを実施。介護が必要な方や妊娠中の方などに、体への負担が少なくなるよう、段ボールベッドを提供することや、ペット向けスペースを確保することとしています。

備蓄品など 多くの方が食料や飲み水を新たに確保

災害発生からライフライン復旧までは、1週間以上かかることが少なくありません。店舗では営業できなかつたり、商品が届かず、品不足になったりすることが予想されます。家族構成や年齢に応じて、事前に必要な物をそろえておきましょう。

見直そう 備蓄品や非常持ち出し品は使える状態かどうかを定期的確認

家に備えておく「備蓄品」

食料品・飲料水(1人1日3リットル)は最低3日分、粉ミルク

- ランタン(LEDなど)
- 乾電池
- 携帯電話のバッテリー
- カセットこんろ
- 携帯トイレ
- ティッシュペーパー
- ビニール袋
- 水のいらぬシャンプー
- 工具
- ロープ
- 救援時の笛
- ペットの餌
- 給水ポリタンクなどの給水容器
- など



＼さらに冬の備えも必要です！／

防寒衣・衣類・長靴 寝袋

- 防災保温シート
- 毛布
- 段ボール
- 新聞紙
- 携帯カイロ
- 発電機*
- カセットボンベや灯油式のポータブルストーブ*

*一酸化炭素中毒の恐れがあるため換気の悪い所では絶対に使用しない



着なくなった上着が、非常時に使えようだな

避難時に最低限持ち出す物はこちら！

- 懐中電灯
- 携帯ラジオ
- 現金・貴重品
- ライター・マッチ
- 救急医療品・常備薬
- お薬手帳
- 厚手の手袋
- 生理用品

市の取り組み 停電への備えを強化

今年度中に市内87カ所あるまちづくりセンターに非常用電源を整備するほか、災害時に旅行者を受け入れる協定を結んだ宿泊施設に対し、自家発電設備の整備費用を一部補助します。